

# 高等学校での実践報告 ネットワークサークルの試み

埼玉県立大学/修復的対話の会 梅崎 薫

阿部真里子臨床心理オフィス 阿部 真里子

埼玉県 A 高等学校 教諭 B、C、D、E 養護教諭

# 背景

---

- COVID-19で対面对話が困難になり、オンライン対話の会を開始。
- ある参加者から、「切実な問題を抱えている自分だけの話を聴いてほしい」というリクエストがあった。
- 1対1のカウンセリングではなく、修復的対話サークルのような構造的に安全に、ひとりの話を複数で聴く対話ができないか。
- リフレクティブ・プロセスとサークルを融合させるネットワークサークルの開発。

# イメージしたのは・・・フィンランドの修復的司法

## 市民活動としての修復的対話の取り組み

- 専門職でなく市民が対話の担い手となる（45-60時間の研修が必要）。
- 二人一組で、主に子どもの紛争（物損, いじめ, 深刻でない暴力）における加害と被害の対話を仲介する。
- 仲介者はアドバイスをしない、ただ両者の言い分を傾聴する。
- 対話の申し込みは、地域の公的な対話仲介所に行く。
- 仲介所のソーシャルワーカーが対話の可能性を判断し、仲介者とのマッチングを行って、対話の場をセッティングする。
- 対話の場は、各小学校区の学校・図書館・スポーツセンターなどに設けておかなければならない（必置）。
- 得られる成果は、加害児やその家族からの、心からの謝罪。

# オンラインによる 修復的対話ネットワークサークル・モデル

- ひとりの語り手の話を、3人の聴き手が聴き、うちひとりが進行役を務める。3人一組で聴く対話構造。
- 「語り手が話す＋3人の聴き手がリフレクティングする」というプロセスを繰り返す。3回程度のプロセスを繰り返すと約90分を要する。
- 最初の自己紹介と、最後の感想は、全員でのサークルとする。

語り手は、3人の異なる聴き手間におけるリフレクティングを聴くことで、自身とのインナーダイアログに加え、3人の異なる多様な意見や感想を直接聴くことができ、自身の考えをより客観視し・深めることができやすくなると推測される。意思決定支援の一つとして位置付け。

# 高等学校での試み

## 対面でのネットワークサークル

- オンラインでのネットワークサークルに、「修復的対話サークルリソースガイド」から、「大人たちに知ってもらいたいこと」(p185)の問いを用いた。
- 参加者は、サークルキーパー：梅崎、コキーパー：スクールカウンセラー阿部、男子生徒F・G、クラス担任女性、副担任男性
- 生徒FとGに、キーパー梅崎がサークルで問い二人の語りを聴く。
- 次に、大人たち(担任、副担任、スクールカウンセラー)に対して、サークルで問い、大人たちの語りを聴く(リフレクティング)。
- このプロセスを5-6回、繰り返した。要した時間は、約70分間。

## 参加した生徒たちのニーズ

1-2年同じクラスで叱られ仲間という認識

- 男子生徒F 2年生 カウンセリングを受けていた生徒 陸上部

学校や教師に対する不信感が強い 提出物の遅れなどあり

教師から「怠けている」「やる気がない」と思われがち

教師からの指導を受け入れることができにくい

中学時代に被害体験、よくケガをする 指導に対して保護者からクレームがある

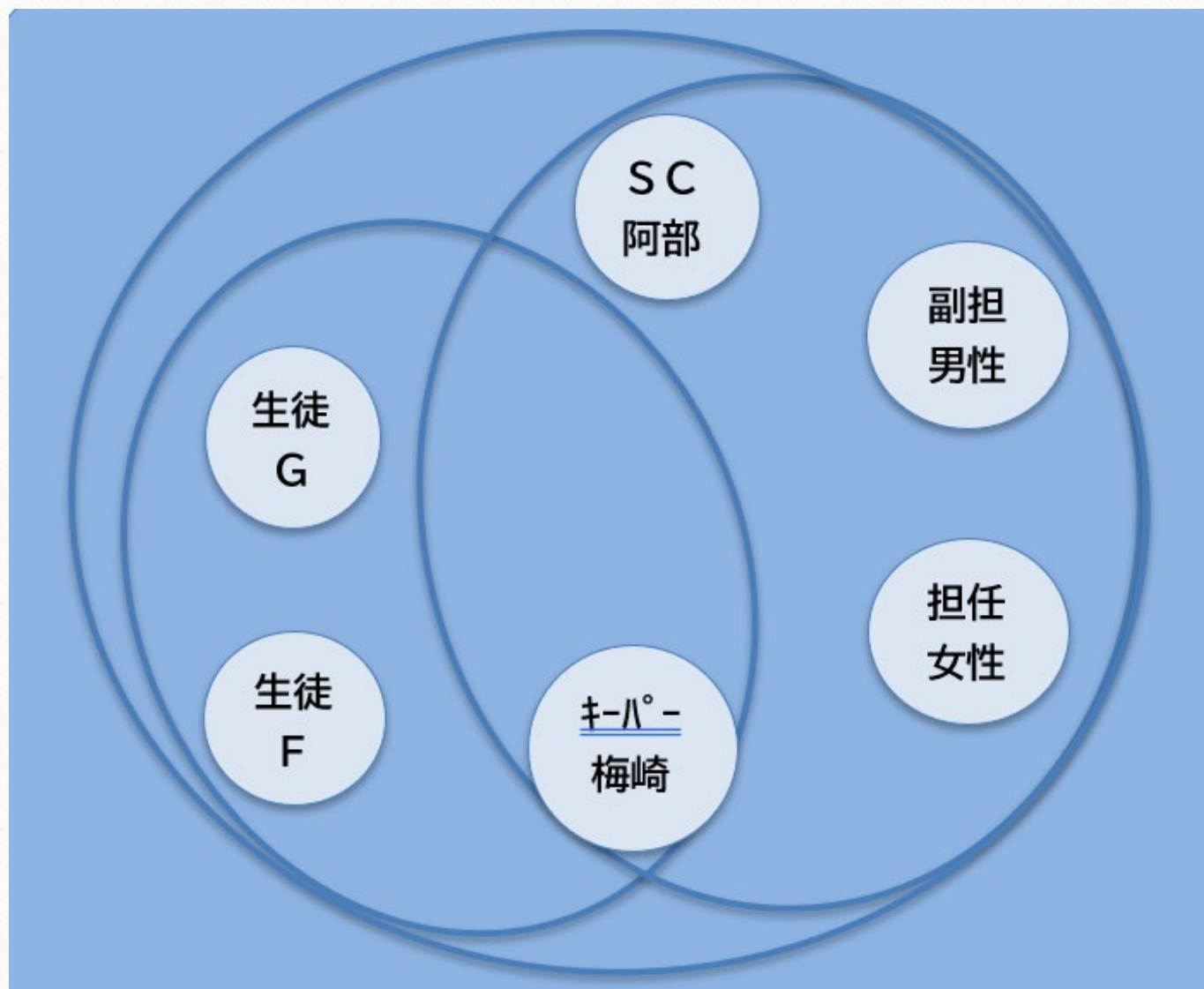
- 男子生徒G 2年生 吹奏楽部

遅刻や欠席の多さが目立つ、腹痛の訴え、教室で落ち着きのなさが目立つ、

能力は高いが提出物を提出せず取り繕う：もらっていない・紛失した・家に忘れた

ひとり親家庭で、家庭生活に困難さがあるのではないかと心配されている

# 座席配置



# 基本的なルール



# 「問い」

全員で

- ・ 第1ラウンド 自己紹介
- ・ 最終ラウンド 今日の対話に参加した感想・気づき

生徒と

- ・ 第2ラウンド これまでの人生であった辛かったこと
- ・ 第4ラウンド 高等学校に入学して、よかったこと
- ・ 第6ラウンド 自分のことで大人たちにわかり辛いこと
- ・ 第8ラウンド 大人たちの話を聴いて、尋ねてみたいこと
- ・ 第10ラウンド 大人たちの話を聴いて、これからできそうなこと

大人と

- ・ 第3ラウンド 大人たちのリフレクティングサークル：生徒たちの話を聴いて
- ・ 第5・7ラウンド 大人たちのリフレクティングサークル：生徒たちの話を聴いて
- ・ 第9ラウンド 大人たちのリフレクティングサークル：質問への回答

# 対話に参加して・・・生徒たちの感想

---

- 普段あまり聞かない先生たちの考えを知ることができて嬉しかった
- 自分の考えを聴いてもらうことができてよかった
- 参加する前は緊張したが、勇気を出して参加してよかった
- 友達が普段考えていることを知ることにもできて、いい時間だった

# 教師から見た当日の生徒たちの様子

- 当初は緊張した様子だったが、非常に嬉しそうで、前向きに参加している様子だった
- 1名だけでなく2名が、互いに面識のある生徒同士で参加したことで緊張を和らげることができたのではないか
- 両名は共に、日頃「大人に自分の考えを聞き入れてもらえない」「自分たちを認めてもらえない」という不満が多い傾向がある。しかし、対話の場では、普段はあまり見ないくらい落ち着いており、しっかりと自分の考えを素直に表出することができていた。

## 教師から見た対話参加後の生徒の様子

---

- いずれも以前は、特に朝の登校時の表情があまりよくなかったが、対話に参加した翌日は、朝から表情がよかったように思える。
- 特に生徒Gについては、周りの生徒に自分から声をかける場面が増えた。困っている生徒や、体調不良が続いている生徒に対して、「自分は夜寝る時間をこうしたら改善できた」などアドバイスをする場面も見受けられた。